

令和7年度官民協働事業レビューにおける意見・評価

事業番号:8月29日(金)① 担当部局・担当課名:農林水産部農村整備課

事業名	農業用水路安全対策普及事業	評価結果	一部改善
-----	---------------	------	------

事業レビューにおいて発言のあった主な意見

【委員の意見】
・農業用水路への転落の原因分析を進めるとともに、危険箇所を特定することを優先すべきではないか。
・転落死亡事故を減らすには、死亡事案だけでなく死亡事故に至る手前の怪我などの事例も分析し、県民へ危険箇所を公開・周知するとともに危機感を共有することが重要ではないか。
・死亡事故ゼロを目指すならば、農林水産部だけでなく、警察や教育委員会、厚生部など関係者みんなで意思統一し、庁内全体に広げた体制をつくるべきではないか。
・高齢者の転落死亡事故防止のために家族からの声かけが重要だとすれば、そこにターゲットを絞った広報活動のやり方を検討すべきではないか。
・ワークショップ等のソフト対策と連携した、転落防止柵などを設置するハード対策の実施が必要ではないか。
【県民評価者の意見】
・ワークショップの取り組みは効果的だと思うが、どこで行うかが重要。ワークショップ開催の要望がある地域で行うのが効果的なのか。要望が無くても危険なところはあるかもしれないのではないか。
・他県(石川、福井)と比べ、転落死亡事故件数に差があるのは何かしら要因があるはず。意識の違いの差だけではないと思われるので、自治体間で連携して分析を進める必要があるのではないか。

県民評価者の評価シートによる評価				県民評価者総数	19
評価区分	行政の関与 不要	役割分担 見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり ・拡充
	0	0	6	10	3 (現行2、拡充1)
県民評価者の 主なコメント	評価結果と 同じ評価	【一部改善】			
		・死亡事故だけでなく、怪我の転落事故の要因分析に力を入れ、情報提供や実際にあった場所のマップの公開、安全対策の効果の検証が必要ではないか。 ・死亡事故だけでなくケガの発生案件も把握すべきではないか。 ・家族から高齢者への注意喚起を目指しテレビCMを放映しているとのことだが、若年層はテレビを見る人が少ない。SNSなどでも情報を届ける工夫をもっと考えると良いと思う。 ・ワークショップに来る意識のある人よりも、むしろ来ない高齢者に危険がありそう。 ・死亡事故が起きているところやケガの発生が高いところを優先してハード対策を実施したり、危険箇所の周知をすべきではないか。			
県民評価者の 主なコメント	上記以外	【抜本的改善】			
		・事故原因を踏まえた注意喚起が必要。 ・CMのターゲット等の見直しが必要。また、ワークショップのやり方、あり方の見直しが必要。 【現行どおり・拡充】 ・用水が危険だという認識を既に多くの県民が持っている中で事故が起きるとするなら、ハード面で対策をするしかないのではないか。			

【参考】委員による評価				委員総数	4
評価区分	行政の関与 不要	役割分担 見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり ・拡充
	0	0	2	2	0